

縮小社会への道 オンライン茶話会 第5回

シリーズ：科学技術の応用は便利だけど？

資本主義経済は、石油を基幹エネルギーとして成長してきました。世界のエネルギー資源確認埋蔵量は、BP 統計 2019 年によると、石油は 50 年、天然ガスは 51 年、石炭は 132 年です。今、年率 2% の経済成長を年率 1% の経済縮小に切り替えることで、100 年後の化石燃料の消費は 1/20 になります。「縮小社会への道」の基本は、貴重な化石燃料の消費を、負担を感じない年率 1% で減少していくことにあります。一方、資本主義経済において、科学技術の応用は実に便利なものとなっています。科学技術の過渡な実用化によって、原発事故による放射能公害やプラスチックの廃棄物公害など、地球上に生きる全ての生物にその存亡の危機が迫っています。今回は、デジタルテクノロジーの問題について、皆さんと共に考えてみましょう。

「デジタルテクノロジーの問題」について②

情報通信技術（ICT）の光と影 — 情報通信技術（ICT）の副作用

日 時：10月14日（水）14:00～15:30

zoom: <https://us02web.zoom.us/j/88384666102> ID: 883 8466 6102

連続講座第2テーマ「デジタルテクノロジーの問題」について①～③に分けて学習・茶話会を実施しております。今回はその②回目ですが、全3回の構成は、下記をご参照願います。

新政権が発足し、目玉として「デジタル庁」が新設されました。デジタル技術は幅が広く、新政権の狙いが何処にあるのか？情報によれば、これまで、なかなか定着しなかった「マイナンバーカード制度」を徹底させようとしているようです。個人の資産、病歴、思想、嗜好まで国に把握される可能性があります。これをどう使うかは、政府の姿勢しだいです。

「カード化社会」に端を発した「監視資本主義」は「キャッシュレス化」に進み、本当は何も得をしないにも関わらず、差別化によって得をしたように感じる「ポイント制度」など、目くらまし作戦を次から次へと仕掛けてきます。また、これらの大量の情報を背後のサーバーシステムで管理するには、大量の消費電力が必要となっています。今回は、情報通信技術（ICT）の副作用について、話題提供をして頂いた後で、茶話会の参加して下さる皆様と共に、じっくり理解を深めていければと願っています。どうか、多くの皆様のご参加をお待ちしておりますので、お気軽にご参加下されば幸いです。

【話題提供】尾崎雄三さん：縮小社会研究会理事 大学では高分子化学を専攻。1970年から25年弱、ゴム・プラスチック製品を製造する会社で製品開発と開発した製品の製造現場で生産技術に従事

「デジタルテクノロジーの問題」全3回のテーマ（今後の日時は追って連絡します）

コンピューターの心臓部品である半導体—資源とエネルギー消費（9/16に実施）

あふれる情報と人工知能が人類に与える影響—社会・経済・人間自体への影響（後日）

連絡先：高橋精巧 bugad205@hi-net.zaq.ne.jp TEL：090-5886-8364

松久寛 h.matsuhisa@shukusho.org

会員でない方の参加歓迎：非会員で参加される場合は事前に松久まで氏名、所属をお知らせ願います。

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>